

《松本市》 松本市ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒390-0833 松本市双葉4-16 松本市総合社会福祉センター5階			
電話 F A X	0263-25-7311	0263-27-2239		
電子メール	vol@svakyo-matsumoto.or.jp			
H P アドレス	http://www.svakyo-matsumoto.or.jp			
職員数	正規	3名	嘱託	1名
	臨時	—	その他	—
開所日と時間	平日 8:30～17:15 土日祝を除く			
情報誌	ボランティア情報 こてまり(社協報「社協まつもと」に掲載) 年4回発行			
来所者数	年間 2,177名			

〔センターの運営方針・指針等〕

- ・市民の自主性や自発性を大切にボランティア活動への関心や参加意欲を高める活動を重点に取り組む。
- ・関係機関、団体との連携を図り誰もが気楽に立ち寄れるボランティアセンターを目指し、様々な相談の窓口を広げながら仲間づくりを進める。
- ・ボランティアに関する情報ネットワークを広げるとともに、地域に根ざした活動を推進する。

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	無料、対象者：ボランティア団体等
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	長机、椅子、情報コーナー
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	パソコン、プロジェクター、テント、炊き出し釜、綿あめ機、ポップコーン機 無料、対象者：地区社協、ボランティア部会等
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	高齢者疑似体験セット、車いす、点字板、ビデオ 無料、対象者：学校関係、施設、地区社協、ボランティア部会等
登録グループの専用ポストの設置	<input checked="" type="checkbox"/>	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
委員構成	—		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
協議会構成	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔財源〕

人件費	独自財源	—
	共同募金	—
	委託料・補助金	○ 松本市補助金
	民間助成金	—
	その他	—

事業費	独自財源	—
	共同募金	○
	委託料・補助金	○ 松本市補助金(松本市健康福祉部福祉計画課)
	民間助成金	—
	その他	○ 講座受講料、ボランティア保険手数料

〔業務及び事業について〕

ボランティア活動支援

相談・コーディネート	○	共
ボランティア保険加入事務	○	共
ボランティア・NPOへの助成	—	—
各種情報提供	○	共

広報・啓発

ボランティア広報誌・情報誌の発行	○	共
ホームページの運営	○	—

相互交流・ネットワークづくり

ボランティアの集い	○	—
・松本市ボランティア交流集会 年1回開催 自主事業 ボランティア活動者・団体、また依頼施設等の交流 活動発表、講演会、松本市社協事業のPR		
ふれあい祭り等の開催	○	—
・松本市総合社会福祉センター ふれあいまつり 年1回、松本市総合社会福祉センターの中にある事業 所・施設等が地域の住民の方との交流を深めるために開 催。 実行委員会形式、ボランティア調整等の協力		

ボランティア講座

未経験者向け	○	共
・傾聴ボランティア養成講座 (NPO法人ホールファミリーケア協会) ・精神保健ボランティア講座 (NPO法人ハートラインまつもと) ・初級ボランティア講座 (ボランティアセンター)		
活動者向け	○	共
・傾聴ボランティアフォローアップ講座 (NPO法人ホールファミリーケア協会) ・認知症サポーター養成講座		

その他の事業

災害ボランティアセンター設置運営訓練	共
ボランティアの受け入れ需給調整等、模擬訓練 ①伝達訓練 ②参集訓練 ③設置運営訓練	
ボランティアやリーダーの育成	委
松本市地区ボランティア部会研修会	
福祉機器貸し出し事業	共・委
福祉自動車、車いす	
ボランティア活動者・団体調査、施設でのニーズ調査	委
ボランティア登録者・団体への活動調査 ボランティア受け入れ施設へのニーズ把握、 依頼	

福祉教育・ボランティア学習

小中学生対象	○	共
・高齢者疑似体験 (ボランティアセンター) ・車いす体験		
高校生対象	—	—
—		
大学・短大・専門学校生対象	—	—
—		
教員・学校関係者対象	—	—
—		
一般対象	○	共
・各種ボランティア講座 (ボランティアセンター)		
福祉教育協力校への助成事業	○	共
総 額	400,000円	1校あたり 約10,000円
小 学 校	21校	中 学 校 12校
高等学校	4校	そ の 他 3校 (特別支援学校)

エコキャップ運動	—
ペットボトルキャップの収集・保管 ボランティア団体への引き渡し	
見守り安心ネットワーク事業	—
災害時や急病の際に自力で対処できない一人 暮らしの高齢者や障害をお持ちの方を、日頃 から隣近所で声を掛け合い、見守り、地域の 絆を深めるしくみづくり	


〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	担当部署・担当職員間で事業計画を立案している
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？	—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	名称：松本市市民活動サポートセンター 運営団体：松本市市民生活課 協働推進係 内容：市民と市民活動団体の活動を支援・促進し、市民協働を推進
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？	
連携・協働先	連携・協働内容
松本市市民生活課 協働推進係 松本市市民活動サポートセンター	・ボランティア相談 週2日（火・金 午後1:00～5:00） ・サポートセンター事業（イベント等）に協力支援
各地区ボランティアセンターとの連携 （四賀・梓川・奈川・安曇・波田）	・ボランティアセンター職員連絡会議
—	—
○センターの強みと弱みについて	
<p>《強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自発性を持って活動したい人と受入側をつなぐコーディネーション力。 ・市民、団体からの多様な相談を受け止め、自らの能力が活かせる場所で継続的に活動ができるように人と人とのつながりを大切にしている。 ・ボランティア講座等により、活動や部会等への参加参画を促進。 	<p>《弱み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア相談者や活動者・団体が、気軽に立ち寄れる場所の確保が難しいので、今後検討していきたい。

○VC見取り図

○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	平成 22 年度松本市地区ボランティア部会役員研修会
目的	ボランティア地域活動リーダー養成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区ボランティア部会のリーダー育成研修として ・ 部会未結成地区には意識啓発として ・ 支え合い・助け合いを活かした見守りサポート、地区ボランティア部会活性化
開催頻度	年 1 回
内容	講演 <ul style="list-style-type: none"> ①「高齢者等を悪質商法から守る」 ②「認知症高齢者等とのコミュニケーション」 社協事業 PR 「見守り安心ネットワーク事業の概要説明」
対象者	地区ボランティア部会役員・部員及び地区を支援するボランティア
企画のポイント 事業成果	地域においてボランティア活動を通じて、支え合い・助け合いのまちづくりを推進している地区ボランティアの方々が、住民の方と関わる時の方法等を学び合うことで自己を高め、また地区のボランティア活動を活性化する機会となった。
参加者の声や その後の動き など	県内の高齢者の状況、高齢者を狙う悪質商法等の情報の収集ができ、高齢者と向き合う時の今後の対応の参考となった。 これからの高齢社会を生きていく上で、認知症高齢者の方々といかに共生していくかが、地域でのこれからの大きな課題。
事業の様子	

事業名	平成 22 年度 松本市ボランティア交流集会
目的	テーマ「笑顔でおつきあい」～コミュニケーションが地域の絆をつくる～ 地域でまた社会で人と人とのつながりが希薄になったと言われている今日。 コミュニケーションの大切さを感じ笑顔あふれる地域をめざして、地域活動者や ボランティア関係者が集い交流を深め、活性化を図る。
開催頻度	年 1 回
内容	ウエルカムコンサート「メイプルサウンドジャズオーケストラ」 (第 1 部) 活動発表 6 団体 活動者による活動 PR (昼食タイム) 交流 フリートーキング 施設販売 等 社協劇団による「見守り安心ネットワーク」寸劇 (第 2 部) 講演会「ぼけちゃったらどうしよう」 ～認知症の理解と対応～
対象者	ボランティア登録者・団体（活動者）、ボランティアに関心のある市民、 福祉施設職員、福祉ひろばコーディネーター、地区ボランティア部会 等
企画のポイント 事業成果	参加者が一日中笑顔で過ごして頂けるようにテーマに基づき企画・対応。 アンケートからもわかるように企画全てが良かったとのお声を頂き、ボランティア 活動への関心や年齢にとらわれず参加意欲を高める啓発事業となった。 地域や隣組等のおつきあいを大切にすることが地域で支え合う絆を深める推進力へ とつながった。
参加者の声や その後の動き など	アンケートより ・若い人年老いた人皆生き生きと全体的に感動の一日で全てが良かった。 ・とても良い企画でした。来年も必ず参加したい。勉強になり充実した一日。 ・地域で活躍しているボランティアから元気をももらった。自分も何かしなければ。

事業の様子



事業名	平成 22 年度災害ボランティアセンター設置運営訓練
目的	大規模災害が発生した場合、社協は松本市からの要請を受けて災害ボランティアセンターを設置運営する。いざという時に社協職員として迅速に対応できるように緊急防災伝達訓練及び災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施。
開催頻度	年 1 回 松本市総合防災訓練に併せて開催
内容	(1) 緊急防災連絡網による伝達訓練 (メールによる伝達) (2) 訓練会場への参集訓練 (3) 災害ボランティアセンター設置運営訓練 総務班 (情報管理・広報) ニーズ班、ボランティア班 (受付係・マッチング係・送り出し係) 物資班 (4) 給食訓練 (日赤奉仕団の協力による炊き出し訓練)
対象者	社協職員、協力者 (梓川地区住民)
企画のポイント 事業成果	住民の積極的参加により、災害に対する的確な準備の機会となった。 当日設置会場が狭かったが、急きょ会場のレイアウトを変更して対応。実際の災害時にはどんな場所でも設置運営する事になるため、臨機応変に対応出来たことで混乱もなくスムーズな動きが作れてよかった。
参加者の声や その後の動き など	防災の日に実施することで、大地震の意識を風化させることなく良いのではないかと。災害ボランティアセンターを設置運営するときに協力を依頼する関係機関をリストアップすると共に平常時から連絡調整が必要と思われる。
事業の様子	